

鉄骨工場、工期3分の2に

新日鉄住金エンジニアリングが新手法

建設会社の新日鉄住金エンジニアリングは、鉄骨の工場や倉庫などの工期をこれまででの3分の2に短縮する工法を開発した。建設に

携わる工員数が減り、建設費も1割程度抑えられるという。復興需要で人手不足になっている東日本大震災の被災地での活用も見込む。

新しい工法でつくる最初の建物は、宇都宮市にある

工業団地内の倉庫で、10月から建設を始め、11月中旬に完成する予定だ。

建設現場での作業を極力減らすため、事前につくっておく部品の数を増やした。現場に持ち込んだ部品を組み立てればよいので、時間がかからない。鉄柱の強度を変えずに重さを3割軽くし、運搬や組み立て作業も効率化した。新工法によって、同社は2015年までに220億円の売り上げを見込む。

国土交通省が毎月約3千社を対象におこなっている「建設労働需給調査」(9月)では、工員が、本来必要な数よりも1・9%足りなかった。(大和田武士)



鉄製の柱と屋根を支える「ハリ」。重さを3割軽くした「宇都宮市の建設現場」